



CHAPTER 4

Cisco 7600 シリーズ イーサネット サービス 20G ラインカードのコマンド概要

Cisco 7600 シリーズ イーサネット サービス 20G (ES20) ラインカードの監視とメンテナンスに関連するコマンドについて、表 4-1 でアルファベット順に説明します。表 4-2 では、ES20 ラインカードで使用する Ethernet Virtual Connection (EVC) コマンドについてアルファベット順に説明します。



(注) インターフェイス コンフィギュレーション モードでの **keepalive** コマンドは、ES20 ラインカードではサポートされていません。

この章で使用するコマンドの詳細については、次の URL にある『Cisco IOS Release 12.2SR Command Reference』を参照してください。

<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/core/cis7600/software/122sr/cmdref/index.htm>

これらのマニュアルに記載されていないコマンドについては、Cisco IOS のコマンドリファレンスおよびマスター インデックスを参照してください。

表 4-1 監視コマンドの概要

コマンド	目的
Router# hw-module module slot reset	指定シャーシ スロットの ES20 ラインカードの電源をオフにしてからオンに切り替えます。
Router(config)# no power enable module slot	指定シャーシ スロットの ES20 ラインカードの電源をオフにします。
Router(config)# power enable module slot	指定シャーシ スロットの ES20 ラインカードの電源をオンにします。
Router# show diagbus slot	指定シャーシ スロットに取り付けられている ES20 ラインカードに関する情報、およびその ES20 ラインカードに取り付けられている Small Form-Factor Pluggable (SFP または XFP) 光 トランシーバ ハードウェアのステータスを表示します。
Router# show hw-module slot slot align [cpu {0 1}]	指定シャーシ スロットの ES20 ラインカードのアライメント データを表示します。
Router# show hw-module slot slot logging [cpu {0 1}]	指定シャーシ スロットの ES20 ラインカードのロギング情報を表示します。
Router# show hw-module slot slot proc cpu [cpu {0 1}]	指定シャーシ スロット内の ES20 ラインカードのプロセスごとに、CPU 利用率を表示します。

表 4-1 監視コマンドの概要 (続き)

コマンド	目的
Router# show hw-module slot <i>slot</i> tech-support [cpu {0 1}]	指定されたシャーシスロットに搭載された ES20 ラインカードの問題をトラブルシューティングするためのシステム情報を表示します。
Router# show idprom module <i>slot</i> [clei]	指定シャーシスロットの ES20 ラインカードの IDPROM 情報、およびオプションで ES20 ラインカードの Common Language Equipment Identification (CLEI) 情報を表示します。
Router# show module [<i>slot</i> all version]	指定シャーシスロットの ES20 ラインカードのステータスおよび情報を表示します。

表 4-2 EVC コマンドの概要

コマンド	目的
Router(config-if-srv)# [bridge-domain bridge-id]	ブリッジドメインインスタンスにサービスインスタンスをバインドします。
Router(config-if-srv)# connect evc-name interface1 efp-id1 interface2 efp-id2	2 つのサービスインスタンス間に、直接的で透過的な接続を作成します。
Router# debug ethernet service evc [id evc-id]	Ethernet Virtual Connection (EVC) デバッグを有効にします。EVC ID を指定しない場合は、システムのすべての EVC でデバッグが有効になります。
Router# debug ethernet service instance [id instance-id interface interface-id interface interface-id]	サービスインスタンスのデバッグを有効にします。オプションを指定しない場合は、すべてのサービスインスタンスでデバッグが有効になります。サービスインスタンス ID およびインターフェイスを指定すると、関連サービスインスタンスのデバッグメッセージだけが出力されます。インターフェイスだけを指定した場合は、そのインターフェイスのすべてのサービスインスタンスのデバッグメッセージが表示されます。
Router# debug ethernet service interface [interface-id]	Port Data Block (PDB) のデバッグを有効にします。
Router#debug ethernet service api	イーサネット サービス インフラストラクチャとそのクライアント間でデバッグを有効にします。
Router#debug ethernet service oam-mgr	OAM マネージャのデバッグを有効にし、OAM のインターワーキングをデバッグします。
Router#debug ethernet service error	イーサネット サービス エラー デバッグを有効にします。
Router#debug ethernet service all	すべての PDB、EVC、サービスインスタンスのすべての EI デバッグメッセージを有効にします。
Router# ethernet evc service-name	グローバル コンフィギュレーション モードで EVC (またはカスタマー サービス インスタンス) を作成します。デバイスは config-srv サブモードに設定されます。
Router(config-if-srv)# encapsulation untagged	タグなしイーサネット フレーム入力を適切なサービスインスタンスにインターフェイスでマッピングするために使用する一致基準を定義します。
Router(config-if-srv)# encapsulation default	デフォルト サービス インスタンスをポートで設定します。同一物理インターフェイスでその他のサービスインスタンスの基準を満たさないものは、このサービスインスタンスに分類されます。

表 4-2 EVC コマンドの概要 (続き)

コマンド	目的
Router(config-if-srv)#encapsulation dot1q vlan-id[,vlan-id[-vlain-id]] [native]	dot1q フレーム入力を適切なサービス インスタンスにインターフェイスでマッピングするために使用する一致基準を定義します。このコマンドの基準では、単一 VLAN、VLAN の範囲、この 2 つのリストです。
Router(config-if-srv)#encapsulation dot1ad vlan-id[,vlan-id[-vlain-id]] [native]	シングルタグ 802.1ad フレーム入力を適切なサービス インスタンスにインターフェイスでマッピングするために使用する一致基準を定義します。このコマンドの基準では、単一 VLAN、VLAN の範囲、この 2 つのリストです。
Router(config-if-srv)#encapsulation dot1q <vlan-id> second-dot1q {any vlan-id[,vlan-id[-vlain-id]]}	QinQ フレーム入力を適切なサービス インスタンスにインターフェイスでマッピングするために使用する一致基準を定義します。このコマンドの基準では、外部タグが一意である必要があり、内部タグは、単一 VLAN、VLAN の範囲、またはこの 2 つのリストにできます。
Router(config-if-srv)#encapsulation dot1ad <vlan-id> dot1q {any vlan-id[,vlan-id[-vlain-id]]}	ダブルタグ 802.1ad フレーム入力を適切なサービス インスタンスにインターフェイスでマッピングするために使用する一致基準を定義します。このコマンドの基準では、外部タグが一意である必要があり、内部タグは、単一 VLAN、VLAN の範囲、またはこの 2 つのリストにできます。
Router(config-if-srv)#rewrite ingress tag {push {dot1q vlan-id dot1q vlan-id second-dot1q vlan-id dot1ad vlan-id dot1q vlan-id} pop {1 2} translate {1-to-1 {dot1q vlan-id dot1ad vlan-id} 2-to-1 dot1q vlan-id dot1ad vlan-id} 1-to-2 {dot1q vlan-id second-dot1q vlan-id dot1ad vlan-id dot1q vlan-id} 2-to-2 {dot1q vlan-id second-dot1q vlan-id dot1ad vlan-id dot1q vlan-id}} [symmetric]	サービス インスタンスへのフレーム入力で行われるカプセル化調整を指定します。
Router(config-if-srv)#service instance id {Ethernet [service-name]}	サービス インスタンス (EVC をインスタンス化したもの) をインターフェイスで作成します。デバイスは config-if-srv サブモードに設定されます。
Router#show ethernet service evc [id evc-id interface interface-id] [detail]	EVC ID を指定した場合は、指定 EVC に関する情報が表示され、インターフェイスを指定した場合は、インターフェイスのすべての EVC に関する情報が表示されます。 detail オプションを指定すると、EVC の詳細情報が表示されます。
Router#show ethernet service instance [id <instance-id> interface interface-id interface interface-id] [detail]	1 つまたは複数のサービス インスタンスに関する情報が表示されます。サービス インスタンス ID およびインターフェイスを指定した場合は、特定サービス インスタンスに関するデータだけが表示されます。インターフェイス ID だけを指定した場合は、特定インターフェイスのすべてのサービス インスタンスのデータが表示されます。
Router#show ethernet service interface [interface-id] [detail]	PDB 内の情報を表示します。
Router(config-if-srv)#xconnect peer-id vc-id encapsulation mpls	スケーラブル EoMPLS をサービス インスタンスで設定します。入力側では、適切なカプセル化操作後、パケットが EoMPLS VC でトンネリングされ、コアで送信されます。

